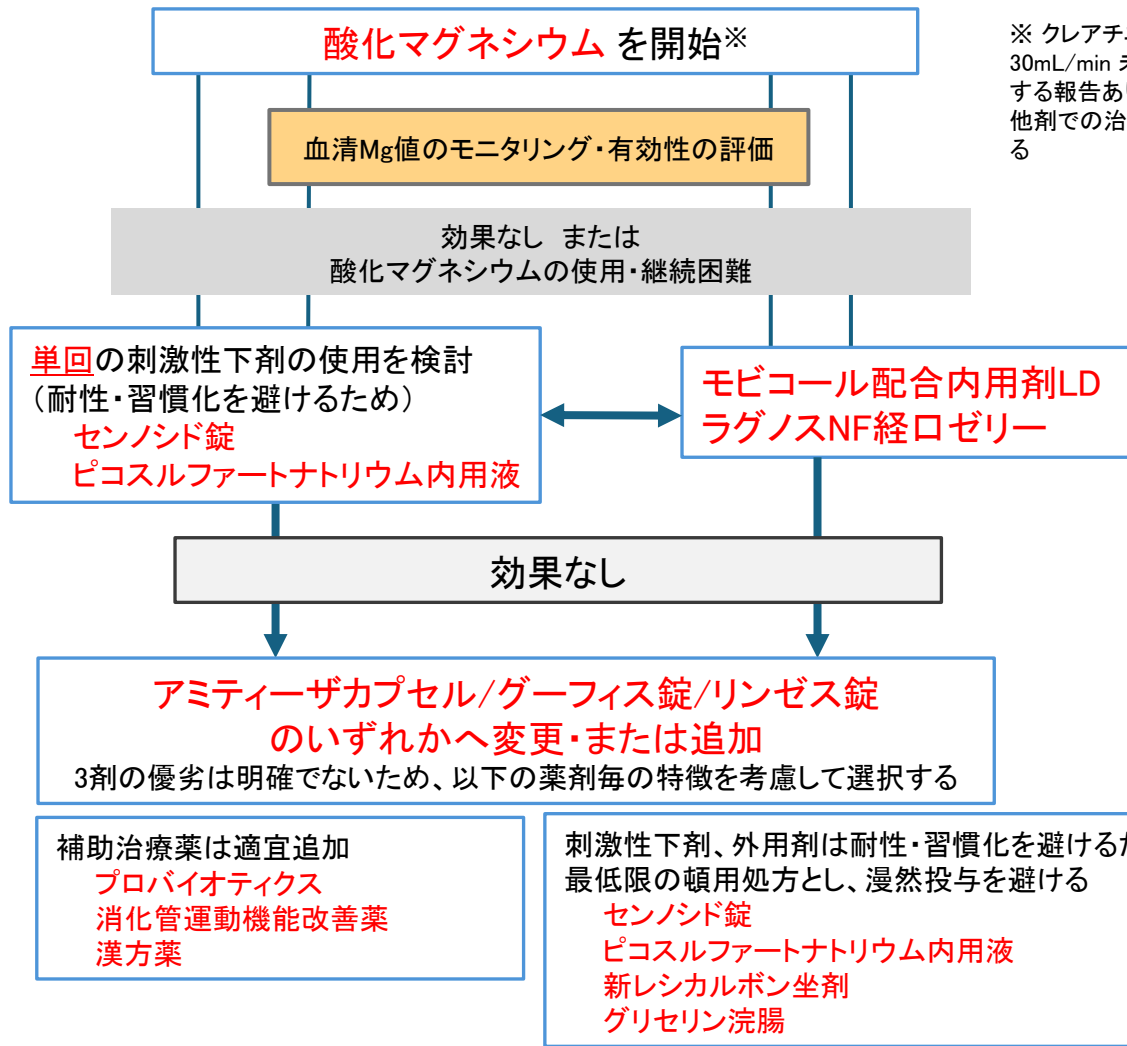


入院時の便秘症に対する薬剤選択フロー

浸透圧下剤を開始

他剤の変更・追加

※ クレアチニンクリアランス 30mL/min 未満では禁忌とする報告あり、その場合は他剤での治療開始も考慮する



薬剤名	用法用量(成人)	注意	初期用量での薬価(1日量)
酸化マグネシウム錠 330mg/500mg	990mg～2000mg 分1～4	高Mg血症	18.3～36.6円
重カマ(酸化マグネシウム散)		高Mg血症 簡易懸濁不適	1.6～3.3円
ラグノスNF経口ゼリー 分包12g	2包 分2 最大 6包/day まで	ガラクトース血症に禁忌	98.8円
モビコール配合内用剤LD	2包 分1 最大 6包/day まで	1包あたり約60mLの水に溶解	118.6円
グーフイス錠 5mg	2錠 分1 適宜増減、最大3錠	食前に内服 相互作用に注意	154.8円
アミティーザカプセル 24μg	2Cap 分2 症状により1Capへ減量	食後に内服 妊婦禁忌	178.0円
リンゼス錠 0.25mg	2錠 分1 症状により1錠へ減量	食前に内服 一包化不可	115.6円

慢性便秘症に対する薬剤選択 補足資料

オピオイド誘発性便秘症(OIC) の場合

- ◆ **スインプロイク錠0.2mg 1錠**の併用を検討する。
(脳腫瘍や髄膜播種などによる血液脳関門の破綻により、オピオイドの鎮痛効果に影響を与える可能性を考慮する)
- ◆ 米国において**アミティーザ**はOICに対しての適応を取得しており、ガイドラインでもOICに対して、塩類下剤からの追加薬剤として推奨されている。

- 本フローに掲載した薬剤のうち、**酸化マグネシウム**、**刺激性下剤**以外の薬剤は全て「他の便秘症治療薬(新規治療薬を除く)で効果不十分場合に使用すること」とされているため、原則**酸化マグネシウム**から使用することを推奨する。**酸化マグネシウム**が使用できない理由(腎障害など)がある場合は、他剤から開始しても良い。
- **センノシド**や**ピコスルファート**などの刺激性下剤も便秘症に対して有効ではあるが、**耐性・習慣性化**を避けるために必要最小限の使用にとどめ、できるだけ頓用・検査用などの使用とする。
- 浣腸、坐剤も有効であるが、単回使用にとどめ複数回分の処方¹は避ける。
- **大建中湯**をはじめとする一部漢方薬にも便秘を改善するという報告はあるが、「慢性便秘症」への適応を持つ院内採用薬はないため本フローには含めていない。
- いずれの薬剤も症状に応じて減量、休薬又は中止を考慮し、漫然と継続投与しないよう、定期的に投与継続の必要性を検討すること。